

木田市長の  
ど〜んと  
真珠のように輝く  
まちづくりのために  
コミュニケーション  
vol.56  
日本の将来は大丈夫？

国の補正予算が次々と組み立てられ、おかげで鳥羽市も懸案の事業、たとえば学校の耐震化などが大いに進むこととなりました。

また、過疎法が改正され、新たに鳥羽市と尾鷲市が共に過疎債という国からの借り入れを活用することが可能となりました。この過疎債は、もちろん市の借金ではありませんが、お金を返す時に、その70%を国が支払ってくれるというものであります。市にとつては、財政的にとてもありがたい話です。これまで実行したくても実行できなかった多くの事業を進めていくことができるものと思います。

す。鳥羽市、三重県、そして国の財政規模について見てみますと、本当に大きければな見方ですが、鳥羽市の予算に対して、三重県の予算は約100倍であり、国の予算は三重県の約100倍となつています。一方、負債を見てみると、三重県の負債は約1兆円で、やはり鳥羽市の約100倍となつています。

国の負債が三重県の約100倍であるなら、国の負債は約100兆円であればなりません。しかし現実には、700兆円にも近づこうという勢いでは、このままでは、1000兆円にもなるかもしれせん。

これは、もちろん現政権だけの問題でもありません。景気を良くしようとして財政出

動をしたり、選挙対策でバラマキ的な予算が組まれたりすることが長年にわたって行われてきたことに原因があります。

日本には、借金以上の預貯金があるとか、国債の95%は国内で買われているとか、とかく安心な意見も多くありますが、このまま限りなく借金が増え続けて良いはずがありません。ある時、急に問題が発生する心配があります。これまでサブプライムローンの問題、リーマンショック、ギリシャの金融不安などが続いてきました。

しかし、日本発の金融不安はどうしても防がなければならぬと思います。今すぐ、国債残高を減少させる方向にはいかないと、国債発行高を少しでも減らしていく方針を立て、世界に向けてその意思を情報として発信していくことが大切だと思えます。

わたしたち地方も何でもかんでも、国に頼る行為を控え、我慢できるものは我慢し、「赤信号はみんなが渡っても、やはり危険だ」ということを認識する時が来ているような気がします。

人権文化の  
花を咲かせよう  
Vol.95

キュウリのひげ

今回も木村秋則さんの著書『リングゴが教えてくれたこと』の中のお話です。

「キュウリには巻きひげがあります。巻きひげの前に指を一本出します。ひげにからまる人とかまらぬ人がいます。小さい五・六歳の子供たちがやると、全員指にからまります。ところが、大人の人をやると、からまない人が出てきます。／まるでキュウリに、『この人はあまりに欲が深い人だ』とか『この人はやさしい人だ』と判定されているかのようです。／前にこう

いうことがありました。ある人が何度やってもキュウリのヒゲがからまないことに怒り出し、キュウリ全部を抜いてしまったのです。彼はキュウリの生産者でした。栽培面積が大きいので、植えるのは別の人で、彼は取り入れや市場に運ぶのが主な仕事でした。／ところが、奥さんがやるとからまりました。でも、本人がやるとからまない。三回も四回も挑戦しても結果は同じでした。／今度はそのご主人がキュウリを植えました。すると自分で植えたキュウリだけ全部からまりました。まるでキュウリに目があるようです。栽培する人をキュウリはよく見ていたのです。／植物はものを言いませんが、人間が言葉を分らないだけで、キュウリやトマト、イネ、白菜、キャベツも、すべての植物はきつと話しかけているのではないかと思えます。このことは見えない世界だから正しいかどうか分かりませんが、でも、キュウリだけは巻きつく巻きつかないがはつきり現れます。」

私は、この夏、実際に試してみようと思つています。